

**文部科学省委託事業**

**2019 年度 幼稚園の人材確保支援事業**

# **事業結果報告書**

**一般社団法人 全国認定こども園連絡協議会**

**令和 2 年 3 月 16 日**

# 目次

1. 調査研究の概要	3
1.1. 園における働き方改革に関する調査研究	4
1.2. 園内電子通貨による集金・集計業務改善に関する調査研究	4
1.3. 職員間の良好なコミュニケーションを育む I C T 活用に関する調査研究	4
2. 調査研究の内容	5
2.1. 園における働き方改革に関する調査研究	5
2.1.1. 調査概要	5
2.1.2. 地域別の収集数	5
2.1.3. 調査場所での研修の様子	6
2.2. 園内電子通貨による集金・集計業務改善に関する調査研究	9
2.2.1. 調査概要	9
2.2.2. 調査における業務フロー図と仮説課題の表	9
2.3. 職員間の良好なコミュニケーションを育む I C T 活用に関する調査研究	11
2.3.1. 調査概要	11
3. 調査研究の分析	14
3.1. 園における働き方改革に関する調査研究	14
3.1.1. 調査結果・分析考察	14
3.1.1.1. 働き方改革の取り組み	14
3.1.1.2. 働き方改革への課題	18
3.1.1.3. 今後取り組みたい働き方改革	22
3.2. 園内電子通貨による集金・集計業務改善に関する調査研究	26
3.2.1. 調査結果・分析考察	26
3.2.1.1. 園の集金・集計業務の実態	26
3.2.1.2. 課題の細分化と整理	26
3.2.1.3. 課題解決のための施策	26
3.3. 職員間の良好なコミュニケーションを育む I C T 活用に関する調査研究	28
3.3.1. 調査結果・分析考察	28
3.3.1.1. 園内 SNS を使った連絡のやり取りは、園の現場にて実現可能か？	28
3.3.1.2. 園内 SNS は、職員の業務効率化と時間削減に効果的か？	31
3.3.1.3. 園内 SNS は、園内の理念浸透や共通理解を深めることに有効か？	33
3.3.1.4. 園内 SNS は、保育の質向上へのサポートとなるか？	35
3.3.1.5. 園内 SNS を利用しても解決できないことは？	38
3.3.1.6. 園内 SNS の導入による変化の中でよかった点は？	39
4. まとめ	44

# 1.調査研究の概要

本事業では、下記内容の調査研究を行い、幼稚園の人材確保に効果的な施策を実施していくことを目的とする。(図 1-1)。

1. 園における働き方改革に関する調査研究
2. 園内電子通貨による集金・集計業務改善に関する調査研究
3. 職員間の良好なコミュニケーションを育む ICT 活用に関する調査研究



図 1-1.調査研究計画全体図

### **1.1. 園における働き方改革に関する調査研究**

前年で実施した園における働き方改革の事例収集では、勤務時間の選択肢を広げたり、有給休暇の積極的な取得を促したり、ICTを導入して業務効率を改善したりしている例が挙がった。前年では、特定の園からの事例収集であったことから、当協議会が全国各地で実施している研修会にて、各地域の複数園からの働き方改革における事例とともに、課題や今後の計画についても合わせて収集する。

### **1.2. 園内電子通貨による集金・集計業務改善に関する調査研究**

近年、急速な広がりを見せる「キャッシュレス」について、園を軸として調査研究を試みる。給食費、教材費などの細かな集金・集計業務がキャッシュレス化で大幅に軽減できそうだという期待は膨らんでいるが、園ごとに状況も異なることから、その業務のパターンを把握した上で、集金業務における課題を細分化し、真の課題とその課題解決のための分析を行う。

### **1.3. 職員間の良好なコミュニケーションを育むICT活用に関する調査研究**

人材確保支援事業におけるICT活用の効果としては、業務効率化に加え、職員のコミュニケーションの活性化に注目する。「たすけあい」で成り立つ園の現場では、日常の情報共有、声掛け、承認・感謝を示すことが職員の気持ちを支えることにつながり、信頼関係や良好な人間関係が働き続けるための大事な基盤となっています。そこで、現代社会の文化にもなっているSNSというしくみを園内限定で運用することで、コミュニケーションを可視化、数値化し、その効果を定量的・定性的に分析する。

## 2. 調査研究の内容

### 2.1. 園における働き方改革に関する調査研究

園の働き方改革を目指し、全国各地の複数園から取り組み事例と課題、そして今後の取り組みの3点を中心に事例や意見を収集した。複数園の事例から、働きやすい職場づくりへの工夫やICT活用のポイントを整理する。

#### 2.1.1. 調査概要

調査実施期間	令和1年6月14日～令和2年2月1日
収集総数	1,104

#### 2.1.2. 地域別の収集数

	内容	収集数
中四国	現在の取り組み	101
	課題	83
	今後取り組みたいこと	59
関東	現在の取り組み	61
	課題	63
	今後取り組みたいこと	47
九州	現在の取り組み	83
	課題	46
	今後取り組みたいこと	47
中部	現在の取り組み	70
	課題	40
	今後取り組みたいこと	29
北海道	現在の取り組み	106
	課題	67
	今後取り組みたいこと	57
東北	現在の取り組み	65
	課題	46

### 2.1.3.調査場所での研修の様子

名称	中四国支部研修会
日時	令和1年6月14日
場所	TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前 ホール8A (ベルヴェオオフィス広島)



名称	関東支部研修会
日時	令和1年7月12日
場所	TKP 渋谷カンファレンスセンター ホール6A (渋谷東宝ビル)



名称	九州支部研修会
日時	令和1年8月9日
場所	興亜宮崎ビル8F 高千穂ホール



名称	中部支部研修会
日時	令和1年9月14日
場所	ウインクあいち（愛知県産業労働センター）12階 1203号室



名称	北海道支部研修会
日時	令和1年11月30日
場所	TKP 札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム 7E



名称	東北支部研修会
日時	令和2年2月1日
場所	認定向山こども園 ~ぱっぱんち~





## 2.2. 園内電子通貨による集金・集計業務改善に関する調査研究

近年、急速な広がりを見せる「キャッシュレス」について、園を軸として調査研究を試みる。給食費、教材費などの細かな集金・集計業務がキャッシュレス化で大幅に軽減できそうだという期待は膨らんでいるが、園ごとに状況も異なることから、その業務のパターンを把握した上で、集金業務における課題を細分化し、真の課題とその課題解決のための分析を行う。

### 2.2.1. 調査概要

調査実施・分析期間	令和1年6月3日～令和2年3月4日
調査先	全国19園（実施都道府県は以下の通り） <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道</li> <li>・山形県</li> <li>・新潟県</li> <li>・千葉県</li> <li>・神奈川県</li> <li>・愛知県</li> <li>・山口県</li> <li>・高知県</li> <li>・福岡県</li> <li>・佐賀県</li> <li>・大分県</li> <li>・宮崎県</li> <li>・沖縄県</li> </ul>

### 2.2.2. 調査における業務フロー図と仮説課題の表

下記の図と表を作成し、この図と表と照らし合わせながら、園の実態をヒアリングした。

#### ◆業務フロー図

	請求データ作成	請求内容チェック	請求準備	請求	請求結果の確認	催促	完了
現金	月末締めで集計	集計内容チェック	集金袋を用意	手渡し	目視で消込	直接口頭やメール	手渡し
口座振替	月末締めで集計	集計内容チェック	全銀データ送信	引き落とし	データの突き合わせ	直接口頭やメール	手渡しや翌月引き落とし
電子マネー	月末締めで集計	集計内容チェック	文書やメール	登降園時に端末操作	データの突き合わせ		

◆仮説課題の表

	その都度・日次	月次
口座振替	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 カ月分遡って請求内容を作成することで、請求内容に漏れが発生しやすく、ダブルチェックに多くの手間がかかる</li> <li>引き落とし不能者が発生する可能性があり、その際のフォローが負担になる、保護者への督促が気まずい</li> </ul>
現金	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収業務がその都度あると、その分現金の回収状況を把握するのに負担となる</li> <li>領収書をその都度発行することの手間がかかる</li> <li>現金は保育者を通じて事務員にわたることがあるが、その受け渡しがスムーズにいかないことがある（保育者がすぐに事務員に渡せないこともある）</li> <li>現金を数える手間がかかる</li> <li>目視・手動による消込に手間がかかる</li> <li>集計時に不足金が都度発生する可能性がある</li> <li>未納金、不足金が発生した場合、保護者への督促が気まずい</li> <li>不足金が発生した場合には、自己負担することもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>請求内容に漏れが発生しやすく、ダブルチェックに多くの手間がかかる</li> <li>現金は保育者を通じて事務員にわたることがあるが、その受け渡しがスムーズにいかないことがある（保育者がすぐに事務員に渡せないこともある）</li> <li>現金を数える手間がかかる</li> <li>目視・手動による消込に手間がかかる</li> <li>集計時に不足金が発生する可能性がある</li> <li>未納金、不足金が発生した場合、保護者への督促が気まずい</li> <li>不足金が発生した場合には、自己負担することもある</li> </ul>

## 2.3. 職員間の良好なコミュニケーションを育むICT活用に関する調査研究

現代社会の文化にもなっているSNSというしくみを園内限定で運用することで、コミュニケーションを可視化、数値化し、その効果を定量的・定性的に分析する。

### 2.3.1. 調査概要

#### ◆園内SNS「nanoty」活用フォロー & アンケート調査期間

活用フォロー期間	令和1年6月3日～令和2年1月31日
アンケート調査期間	令和2年2月10日～令和2年2月27日

#### ◆回答数

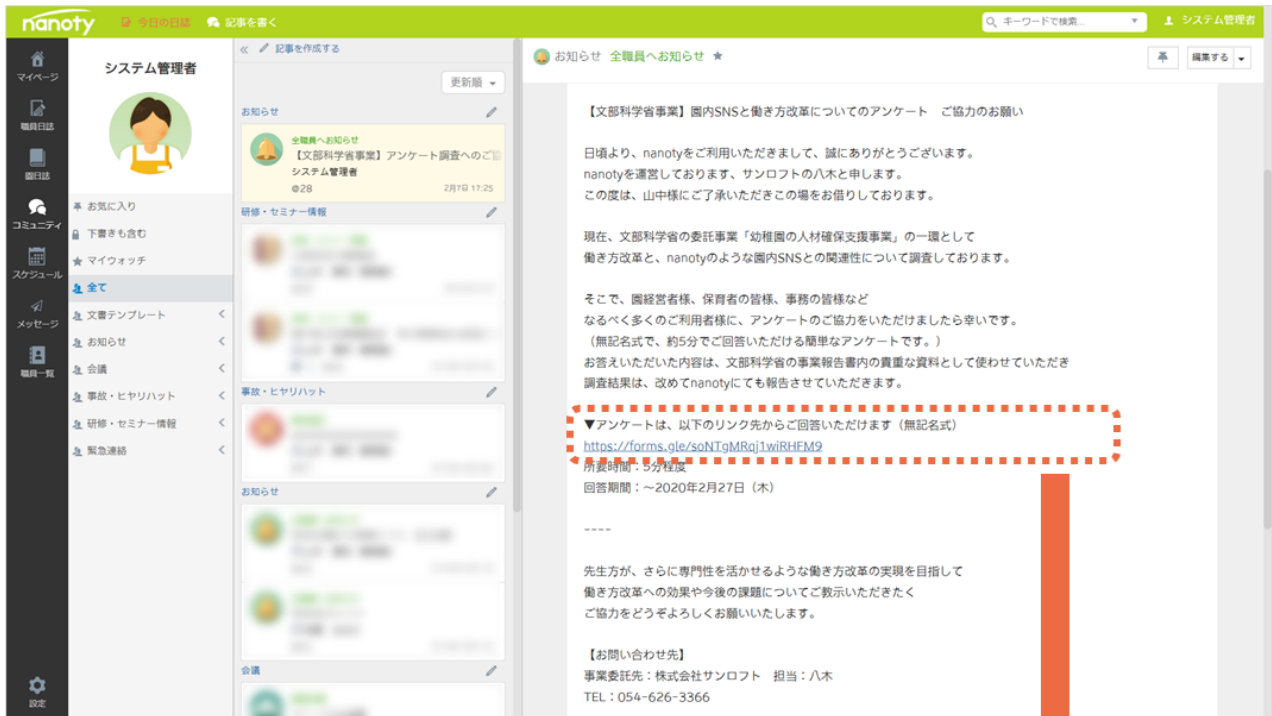
回答総数：15園 121名

対象	回答数
園長・教頭	8
主任・主幹教諭・副主幹教諭	13
保育者	78
保育補助	2
看護師	4
事務長	2
事務・総務	7
栄養士	4
調理	1
運転手	2

◆調査項目

<p>調査項目</p>	<p>0. 基本情報（役職、保育者歴、現在勤めている園での在籍年数、現在勤めている園の職員数）</p> <p>1. 「nanoty」の利用実態について（いつ、時間帯、1日に合計した時間）</p> <p>2. 「nanoty」の利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「nanoty」を使って、ちょっとした確認や相談を行ったことがあったか？</li> <li>・ 「nanoty」などのSNSの方が、対面での会話よりも発言しやすいか？</li> <li>・ 直接会話ができない日は、「nanoty」などのSNS上での会話でも良いと思うか？</li> <li>・ 対面での会話と比べて、SNS上でのやりとりに抵抗があったか？</li> <li>・ ひとつの場所（nanoty）での情報共有によって、職員間の確認が楽になったか？</li> <li>・ 「nanoty」によって、職員同士の共通理解が増えたか？</li> <li>・ 「nanoty」によって、園長・主任の考えが、職員みんな理解できるようになったか？</li> <li>・ 「nanoty」で情報共有ができるの良いと思うことは？</li> <li>・ 職員会議などの話し合いの拘束時間が短くなったか？</li> <li>・ 「nanoty」の利用によって、書類作成や事務作業の削減にもつながったか？</li> <li>・ 「nanoty」を導入したことで、日常の情報共有の他に、声掛けや承認・感謝を示すことが多くなったか？</li> <li>・ 「nanoty」の利用によって、保育者のやりがいや魅力発見にもつながったか？</li> <li>・ 「nanoty」の利用によって、保育の質向上にもつながったか？</li> <li>・ ※上記項目で「はい」と答えた方・・・どのように保育の質が向上したか？</li> </ul> <p>3. 「nanoty」の導入による変化の中で、よかった点（具体的なエピソードとともに）</p> <p>4. 「nanoty」を活用しても解決できない課題は？</p>
-------------	--

◆調査依頼画面とアンケート画面（Web フォーム）



### 「nanoty」調査アンケート

日頃より、「nanoty」をご利用いただきまして、ありがとうございます。  
この度、文部科学省からの委託事業「人材確保支援事業」の一環で、「nanoty」のような園内SNSの効果について調査させていただきたく、ご協力いただけましたら幸いです。  
「nanoty」の品質向上にも活用させていただきたく、ご意見をお寄せください。5分程度で回答いただける内容となっております。

**\*必須**

あなたの基本情報を教えてください。

**園名\***  
回答を入力

**役職\***  
例) 園長、主任、保育者  
回答を入力

**保育者歴\***  
例) 8年  
回答を入力

「nanoty」について、あなたの声をお聞かせください。

「nanoty」を使って、ちょっとした確認や相談を行ったことがあった\*

はい  
 いいえ  
 どちらとも言えない

「nanoty」などのSNSの方が、対面での会話よりも発言しやすい\*

はい  
 いいえ  
 どちらとも言えない

直接会話ができない日は、「nanoty」などのSNS上での会話でも良いと思う\*

はい  
 いいえ  
 どちらとも言えない

対面での会話と比べて、SNS上でのやりとりで抵抗があった（記事の投稿やコメントなど）\*

### 3. 調査研究の分析

#### 3.1. 園における働き方改革に関する調査研究

調査結果と分析考察は以下の通りである。

##### 3.1.1. 調査結果・分析考察

##### 3.1.1.1. 働き方改革の取り組み

**事務業務への ICT 活用が最も話題にあがり、勤務体制見直しには休暇の取得推進の傾向が高い**

各地域で収集した働き方改革への取り組みをテキストマイニングで分析すると、どの地域においても「ICT」の言葉が多く使われ、東北地域以外においては最も多く見られた。その次に、「休暇」や「有休」、「育休」「勤務時間」の言葉が多く、休暇を取りやすい声掛けや勤務時間を是正する取り組みがされていることがわかる。

ICT の活用について、具体的には、園児の出欠・登降園の管理や保護者への情報発信のアプリ化など、事務業務の ICT 活用がされていることがわかる。

中四国支部研修で収集した、働き方改革の取り組み



関東支部研修で収集した、働き方改革の取り組み



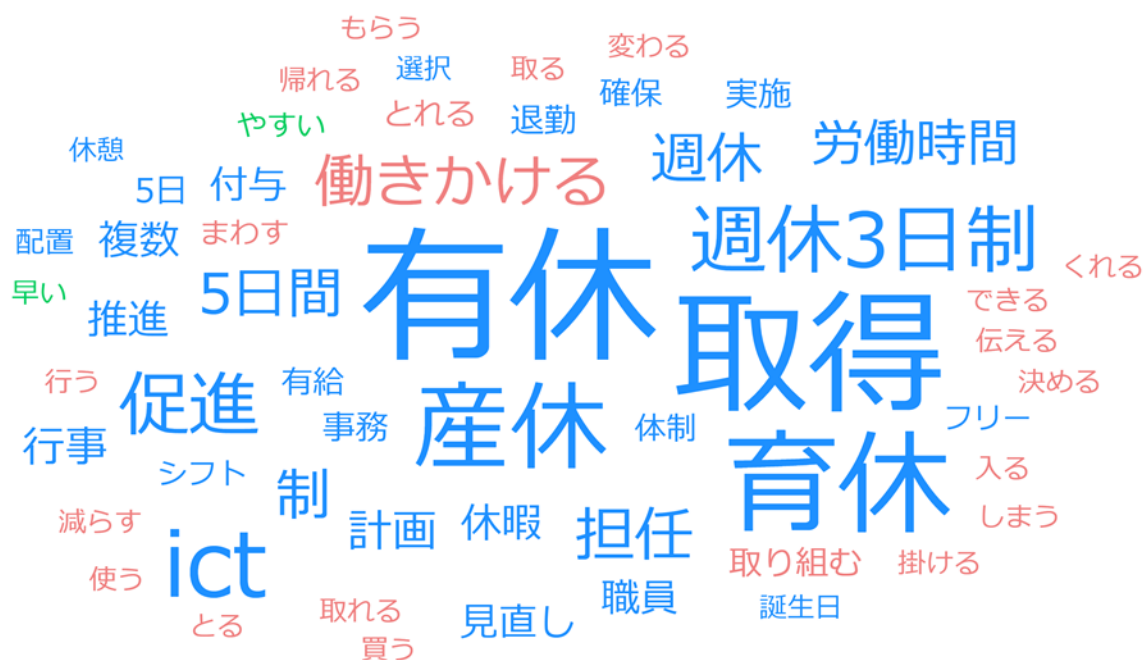
九州支部研修で収集した、働き方改革の取り組み







## 東北支部研修で収集した、働き方改革の取り組み



### ICT を活用した取り組みに関する記述 ※一部

- ICT 化の導入・・・クラスの様子をアプリで配信。園児管理、登降園管理
- ICT 化・・・事務作業軽減、登降園管理、おたより配信、連絡帳
- ICT 化。欠席・遅刻・早退の連絡。お迎え時間の連絡。できるだけ電話を減らす。先生の時間を作る
- ICT の導入・・・登降園システム。パソコン各クラス 1 台（帳簿他）。午睡チェック
- ICT シフト、Google の活用、各担任にメールを作成し、担当（先生ではない）に休み等のメールをす。（先輩に知られないで希望休暇をとれる）
- 業務（事務）の効率化。ICT の導入
- ICT 化の段階的導入
- ICT 導入⇒登園時刻をデータ管理⇒事務時間の短縮
- 連絡アプリ（ICT）の導入で事務負担を軽減した
- おたより帳を ICT 化
- 園務に ICT 活用（特にスマホ）
- 書類等の ICT 化
- ICT の導入：年間計画、月・週案、日誌、幼児の状況等
- 保育教諭による事務作業の軽減として、保護者との連絡帳を ICT 化。アプリ使用。日々の子どもの様子を文章で送信、アルバムで大量の写真を閲覧可、日々の保護者とのやり取り
- ICT の導入・・・登降園管理、写真購入、園児名簿管理、一斉メール配信
- ICT の導入（園児登降園管理・一斉メール送信・バスや出欠についての連絡）
- タイムカードを ICT 化

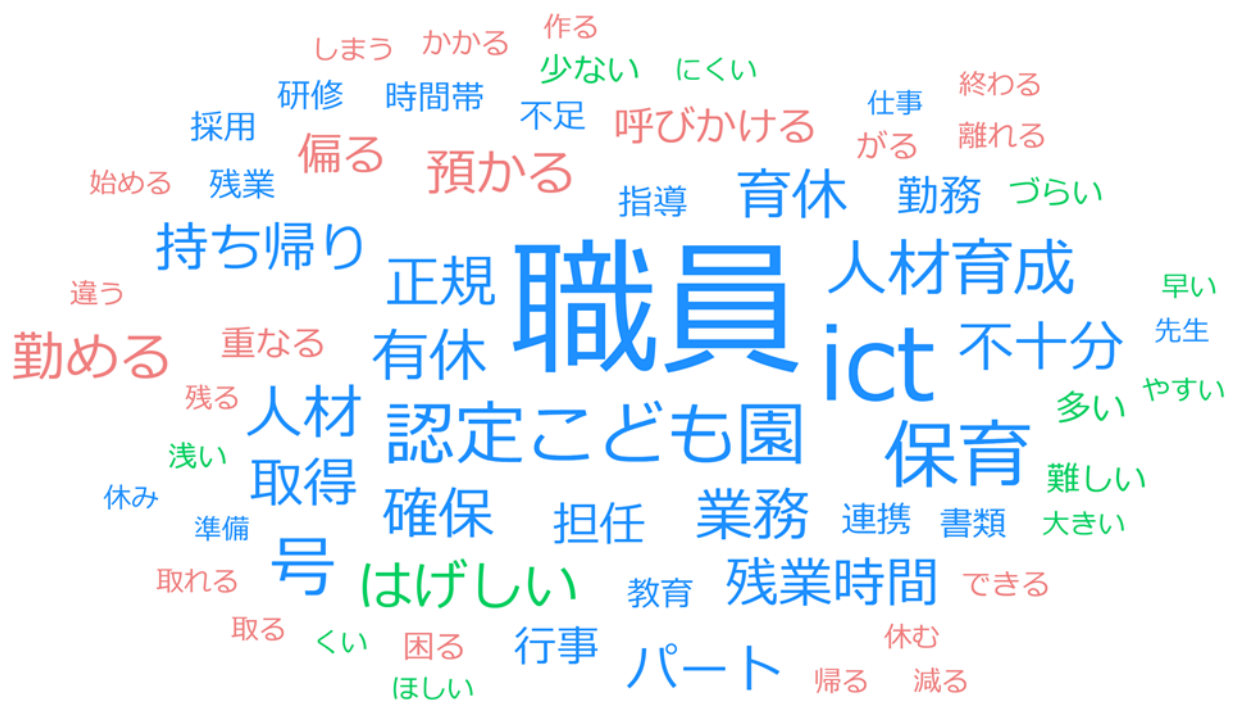
### 3.1.1.2. 働き方改革への課題

**ICT活用の課題としては、職員のITリテラシーを高めて上手に運用できるサポートが必要**

働き方改革への課題としては、「職員」「人手」「人材」「不足」「育成」が多く見られる傾向になった。どの地域でも人材不足を課題にあげており、改めて人材確保への取り組みが急務であることがわかる。

また、現在の取り組みに、ICT活用が最も話題にあがったが、課題についても「ICT」の言葉が多く抽出された。具体的に見ると、ICTを導入したは良いが、一部の職員にはICTを活用するスキルが足りず、ICT導入によって現場が混乱している様子が見受けられる。ICTをただ導入するだけでなく、職員のITリテラシーを高め、きちんと各園でどう使うかについても理解した上でICTを利用する取り組みが、ICT活用の課題となっている。

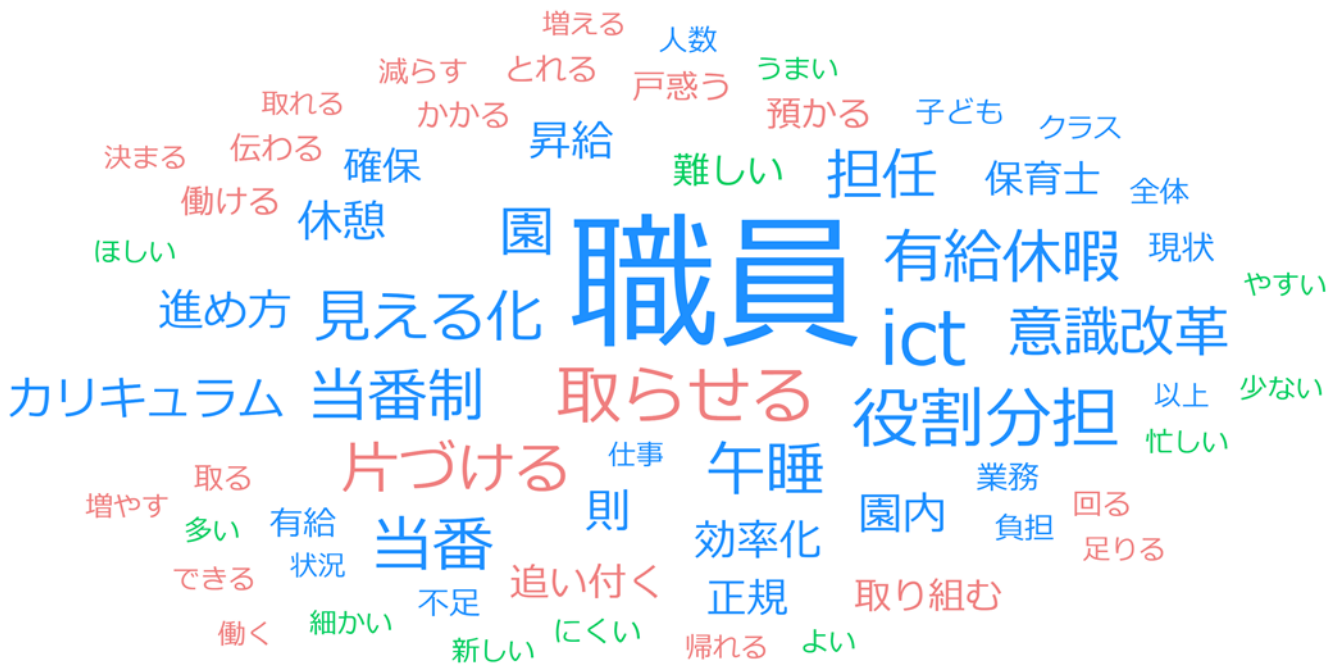
中四国支部研修で収集した、働き方改革の課題



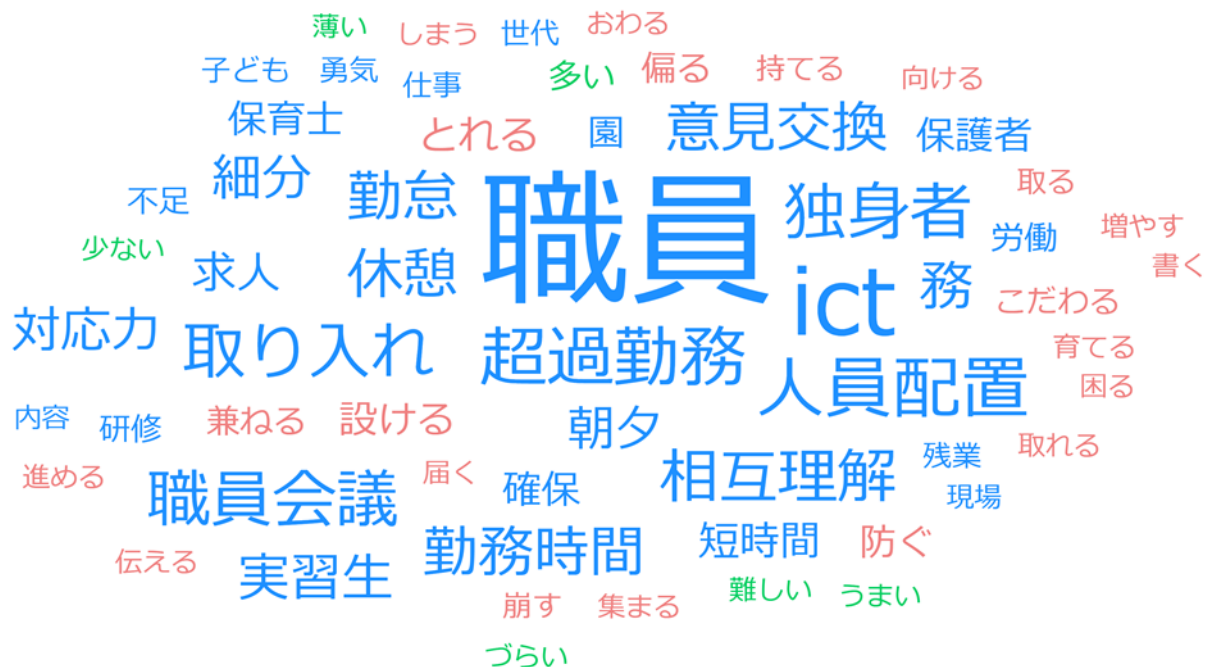
関東国支部研修で収集した、働き方改革の課題



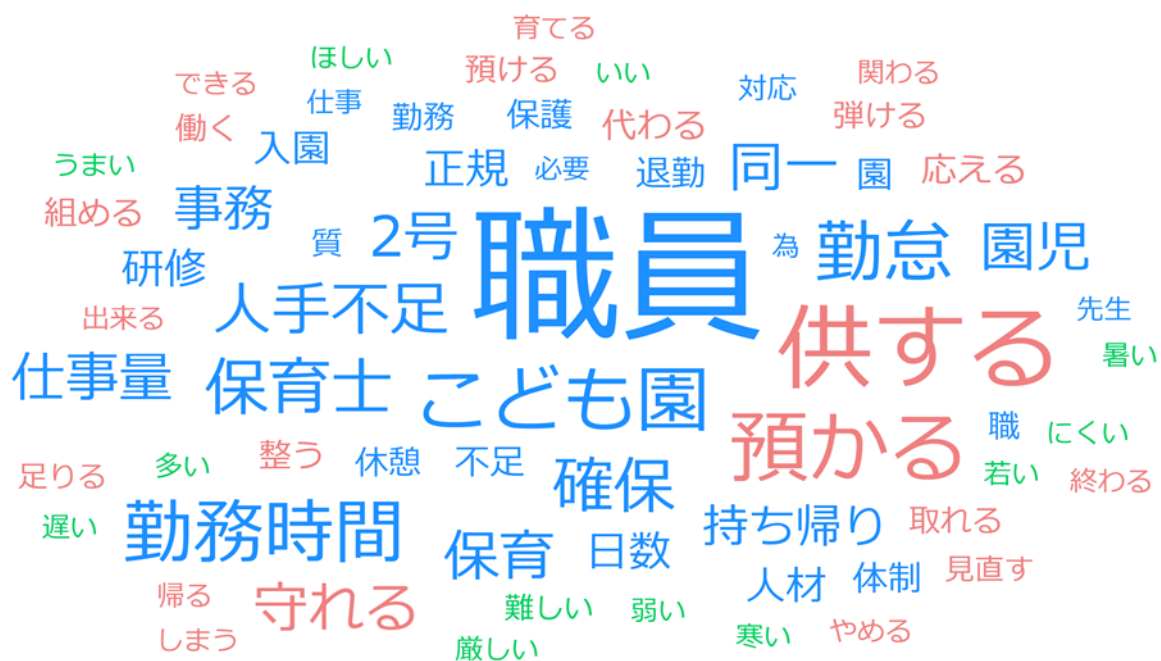
九州支部研修で収集した、働き方改革の課題



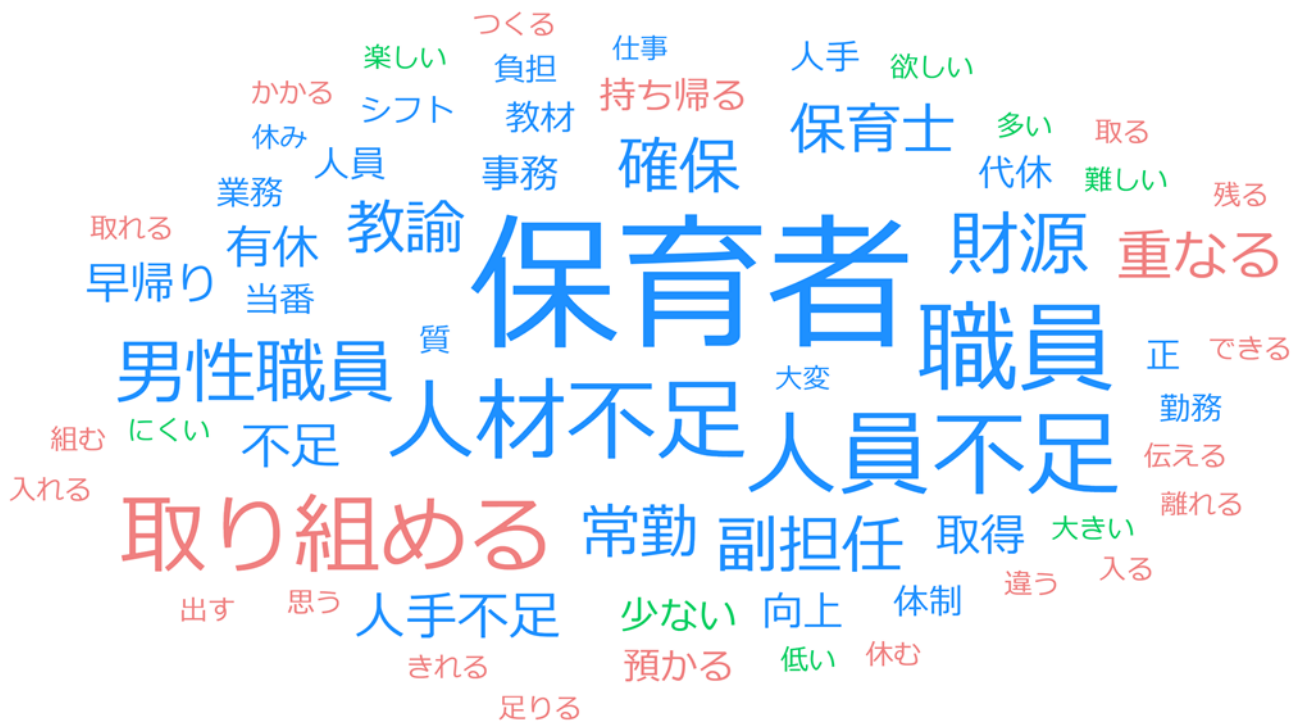
中部支部研修で収集した、働き方改革の課題



北海道支部研修で収集した、働き方改革の課題



東北支部研修で収集した、働き方改革の課題



ICT を活用した課題に関する記述 ※一部

- パソコンが苦手な職員には ICT 化の方が時間がかかってしまう
- ICT 化を進めているが、基本的な日誌や報告書等は全て紙媒体で行っている
- 午睡時のチェック、ICT 化、一斉メールが課題
- ICT 導入により、デジタルデバインドが発生している
- データと紙媒体の両方で運用⇒ICT 導入で手間がかかる部分もある
- ICT 導入により、職員が混乱（使い方や導入により、PC そのものの操作）
- ICT に対して・・・得意不得意がある。職員にも保護者にも対応力がないと進められない
- ICT の導入をしていない



関東支部研修で収集した、今後取り組みたい働き方改革



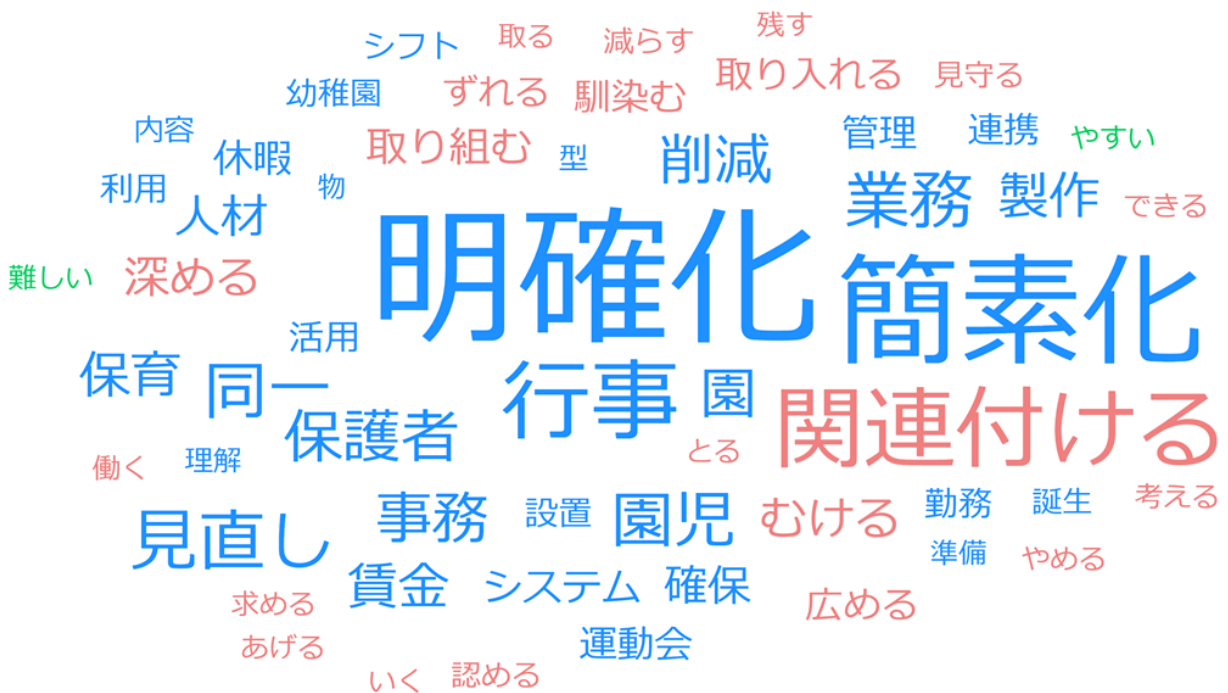
九州支部研修で収集した、今後取り組みたい働き方改革



中部支部研修で収集した、今後取り組みたい働き方改革

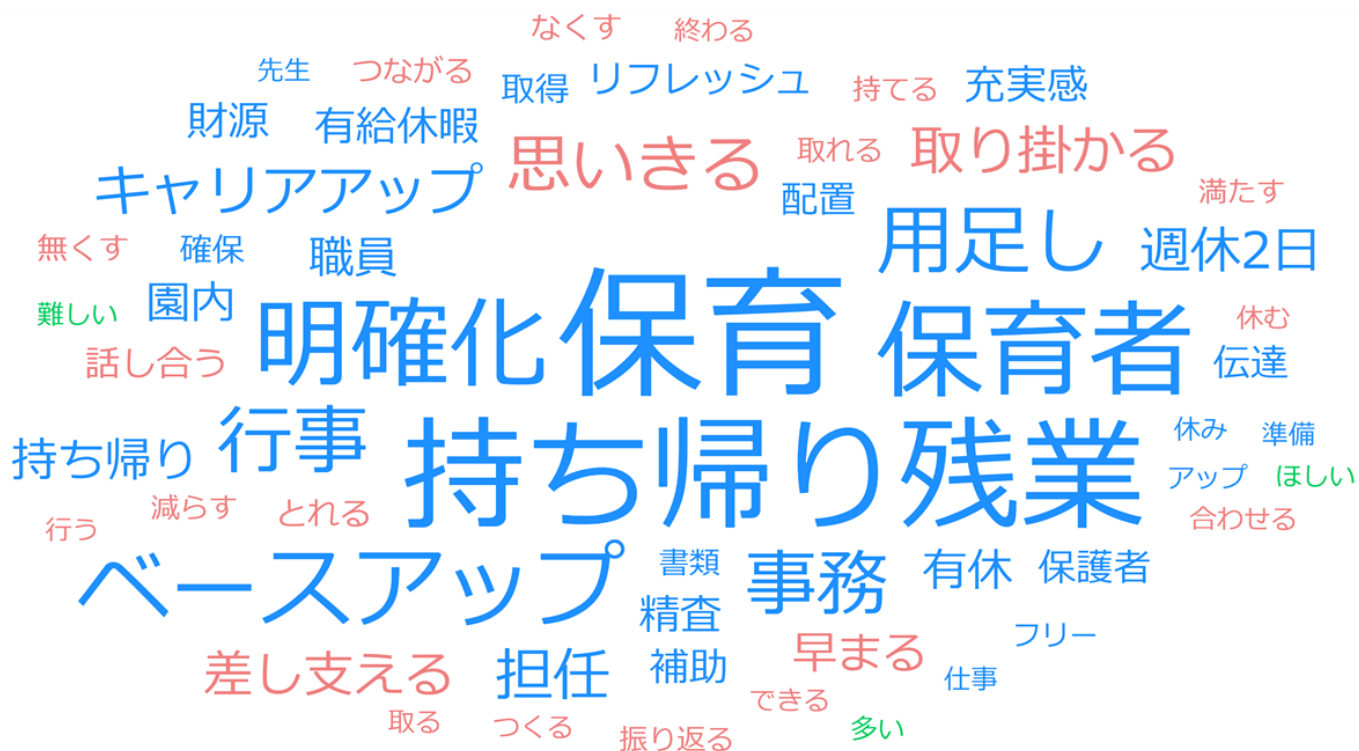


北海道支部研修で収集した、今後取り組みたい働き方改革





東北支部研修で収集した、今後取り組みたい働き方改革



今後取り組みたい働き方改革で ICT 活用に関する記述 ※一部

- ICT の積極的導入…午睡チェック、メッセージアプリなど
- さらなる ICT 化
- 新園舎が年度末に建つ予定なので ICT 化取り入れる予定
- ICT の使い方を教えてほしい。園バス、徒歩、マイカー登園と多様なのでどのように使ったらよいか？
- ICT 導入…保育要録、アルバム
- ICT 化に慣れてもらう
- ICT 化、一斉メール
- 記録の ICT 化（効率化）
- ICT 化。ただ、導入時の初期の PC 入力の負担が大きい
- 帳簿類の ICT 化（要録、児童表）⇒持ち帰りを少なくする
- ICT の積極的導入
- ICT による業務効率化
- 事務処理時間の短縮のため、ICT 化を検討したい。持ち帰り仕事を無くすこと
- ICT 化を取り入れるための下準備検討を始めたい

## 3.2. 園内電子通貨による集金・集計業務改善に関する調査研究

調査結果と分析考察は以下の通りである。

### 3.2.1. 調査結果・分析考察

#### 3.2.1.1. 園の集金・集計業務の実態

- 園の集金・集計業務には、方法として「都度現金（集金袋）」「日次現金（園内払い）」「月次現金（集金袋）」「口座振替」「電子マネー」の5種類があることがわかった。
- それぞれの集金内容は、各園によって様々であった。

#### 3.2.1.2. 課題の細分化と整理

- 各集金方法にて、業務フローごとに課題を深掘りすると、集金・集計業務において職員の負担が大きい課題は「現金集金の際の集計と金融機関への振り込み」「口座振替での集金の際の請求内容の取りまとめ」の2つであることがわかった（表 3-1）。

#### 3.2.1.3. 課題解決のための施策

- 現金集金の際の集計と金融機関への振り込みについての負担が大きい課題については、口座振替や電子マネーなどのキャッシュレスのしくみを導入することで解決できると考える。
- 口座振替での集金の際の請求内容の取りまとめについての負担が大きい課題については、各園で導入している保育システムとの連動で、日々の園児の登降園などの情報を適切にシステム内で管理し、それをもとに自動で請求内容が出力され、確認作業を減らすしくみが必要と考える。

	請求データ作成	請求内容チェック	請求準備	請求	請求結果の確認	催促	支払	完了
郵便現金 (現金袋)	・注文書を用意し、保継者に記入してもらったため、間違いがありません。	・注文書にある金額を原則でもチェックをする（人手が足りず、1人だけでチェックをする場合もある）	・現金袋と物品を用意して重なりが落ちる連絡袋に入れて、保継者に渡すので、無くす場合もある		・おつりを用意しておく必要がある		・保賃者は、現金を掛け取ってから事務に行くまでの間滞っていないか、祖父母が迎えの場合で支払ってもらえない場合がある ・保賃者は、現金を掛け取ってから事務に行くまでの間滞っていないか、祖父母が迎えの場合で支払ってもらえない場合がある ・現金の持ち合わせがなく、おつりが必要な場合がある（保賃者がびびったりの金額を入れてくれないこともある）	・まとめとって集計して、間違なければ銀行口座へ入金を行う ・★小銭が多いと、入金手数料がかかることがある ・現金管理(カンプ)が手間 ・領収書を出す必要がある
日次現金 (園内払い)	・延果保育を利用する際、差重、陸重の打刻などを記録するが、漏れがあることがある	・漏れがあっても覚えていない	・自治体ルールで決められた料金テーブルで計算するため、煩雑	・お迎えの際に請求するので、時間が取られる	・おつりを用意しておく必要がある	保賃者への督促が来ますか	・郵便支払いをお断りしなればならないが、祖父母が迎えの場合で支払ってもらえない場合がある ・保賃者は、現金を掛け取ってから事務に行くまでの間滞っていないか、祖父母が迎えの場合で支払ってもらえない場合がある ・現金の持ち合わせがない ・支払いを要する時間がかかる(保賃者が対応)	・お釣り準備が面倒 ・現金を銀行口座へ入金を行う手順 ・全額担当者がいなかったため金庫に現金を入れることができない ・★小銭が多いと、入金手数料がかかることがある ・現金が足りない場合、先生が負担する ・現金管理(カンプ)が手間 ・領収書を出す必要がある
月次現金 (現金袋)	・★延果保育、給食、バス等様々なデータを集計しなければいけないための時間がかかり西側	・ダブルチェックが必要(自動生成されている重でもオスレーションを保賃者に兼ねており値がよくなる、月次作成なので調整がエックがでさない)	・いついくら支払いが生じるかの通知(おたよりに記載)が必要かの通知(おたよりに記載)が西側	・請求書類や明細を重なりが落ちる連絡袋に入れて、保賃者に渡すので、無くして保賃者に渡さない場合もある		保賃者への督促が来ますか	・現金を受け取ってから事務に行くまでの間滞っていないか、祖父母が迎えの場合で支払ってもらえない場合がある ・現金が足りない場合、先生が負担する ・現金管理(カンプ)が手間 ・領収書を出す必要がある	
口座振替	・★延果保育、給食、バス等様々なデータを集計しなければいけないための時間がかかり西側 ・請求内容まとめるとまとまった時間が取れず、煩雑	・ダブルチェックが必要(自動生成されている重でもオスレーションを保賃者に兼ねており値がよくなる、月次作成なので調整がエックがでさない)	・いついくら支払いが生じるかの通知(おたよりに記載)が必要かの通知(おたよりに記載)が西側 ・月次の締め期限があり、進捗時間が限られる	・月次で取り締めるので請求が必要となる(都度口座振替してもらうことはできない) ・請求書類や明細を重なりが落ちる連絡袋に入れて、保賃者に渡すので、無くして保賃者に渡さない場合もある	・引き落とし日にいくら引き落とされるか、忘れてしまう 保賃者がいる	保賃者への督促が来ますか	・口頭之余給を持たせておく必要がある(保賃者)	・入金不足に対して保賃者へのアクションが必要
電子マネー	・延果保育を利用する際、差重、陸重の打刻などを記録するが、漏れがあることがある	・漏れがあっても覚えていない	・自治体ルールで決められた料金テーブルで計算するため、煩雑	・お迎えの際に請求するので、時間が取られる ・燃費の操作に慣れない保賃者は対応できない		保賃者への督促が来ますか	・郵便支払いをお断りしなればならないが、祖父母が迎えの場合で支払ってもらえない場合がある ・チャージ金額が不足している場合がある ・請求を準備する必要がある	・まとめとって集計して、間違なければ銀行口座へ入金を行う ・★小銭が多いと、入金手数料がかかることがある ・現金管理(カンプ)が手間 ・領収書を出す必要がある

表 3-1.集金・集計業務フロー別に見た課題の細分化

### 3.3. 職員間の良好なコミュニケーションを育む I C T 活用に関する調査研究

調査結果と分析考察は以下の通りである。

#### 3.3.1. 調査結果・分析考察

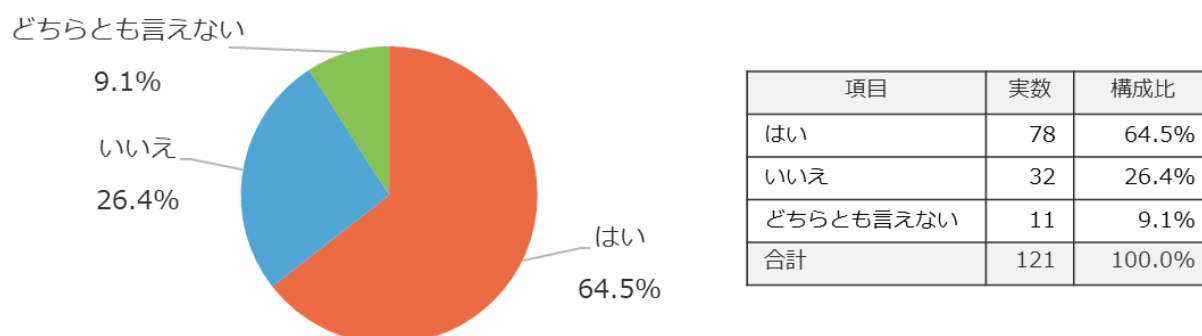
##### 3.3.1.1. 園内 SNS を使った連絡のやり取りは、園の現場にて実現可能か？

###### 園の現場において、対面ではなく園内 SNS を使った連絡のやり取りは可能

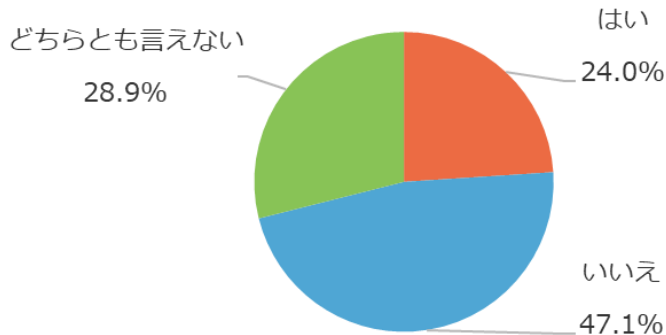
「園内 SNS を使って確認や相談を行ったことがあった」と回答したのは全体の 64.5%。また、「園内 SNS でのやりとりに抵抗がなかった」と回答した人が 47.1%。26.4%の職員は使うことができていなかったようだが、園内 SNS を使って確認や相談を行った職員が過半数を超える結果となったことから、園の現場において、対面ではなく園内 SNS を使った連絡のやり取りは、不可能ではないことがわかる。

しかし、一方でいつ園内 SNS を利用しているかを質問したところ、「勤務時間外」の利用が最も多い結果となった。勤務時間外にも自主的に職員が利用していることがわかる。各職員の仕事への向き合い方にもよるため、一概には言えないが、なるべく業務時間内の隙間時間などで利用することへのフォローが必要になることも考えられる。

###### 「nanoty」を使って、ちょっとした確認や相談を行ったことがあった

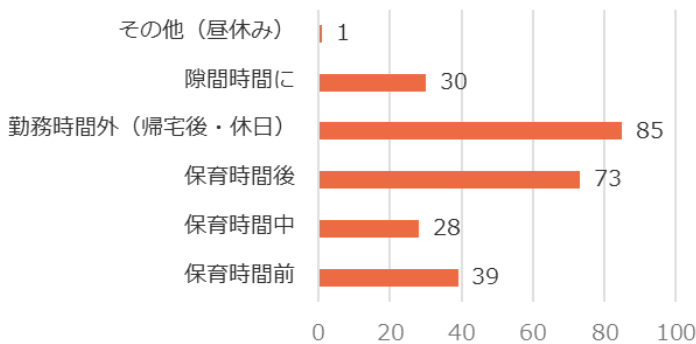


対面での会話と比べて、SNS 上でのやりとりに抵抗があった（記事の投稿やコメントなど）



項目	実数	構成比
はい	29	24.0%
いいえ	57	47.1%
どちらとも言えない	35	28.9%
合計	121	100.0%

「nanoty」を、いつ使っていますか？ ※複数選択可

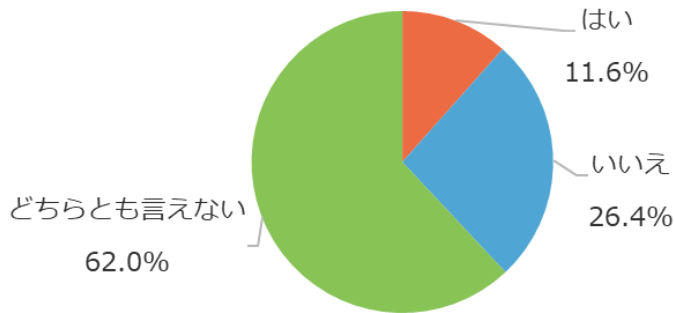


項目	実数	構成比
保育時間前	39	32.2%
保育時間中	28	23.1%
保育時間後	73	60.3%
勤務時間外 (帰宅後・休日)	85	70.2%
隙間時間に	30	24.8%
その他 (昼休み)	1	0.8%

必ずしも対面でなく、状況に応じて園内 SNS で会話することは有効

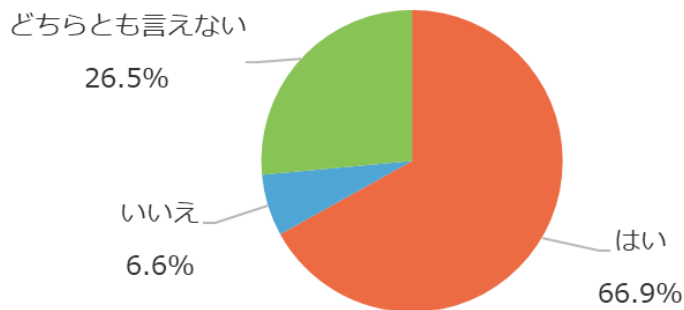
園内 SNS の方が対面での会話よりも発言しやすいかどうかについて、「どちらとも言えない」が 62%、「直接会話ができない日は園内 SNS 上での会話で良いと思う」と回答した人が 66.9%、そして園内 SNS の利用が長い職員にいたっては 82.4%がそう回答したことから、必ずしも園内 SNS の方が対面よりも会話がしやすいということばかりではないが、直接会話ができないなど場合に応じて、園内 SNS での会話でも問題ないとする職員が多いことがわかる。

「nanoty」などのSNSの方が、対面での会話よりも発言しやすい



項目	実数	構成比
はい	14	11.6%
いいえ	32	26.4%
どちらとも言えない	75	62.0%
合計	121	100.0%

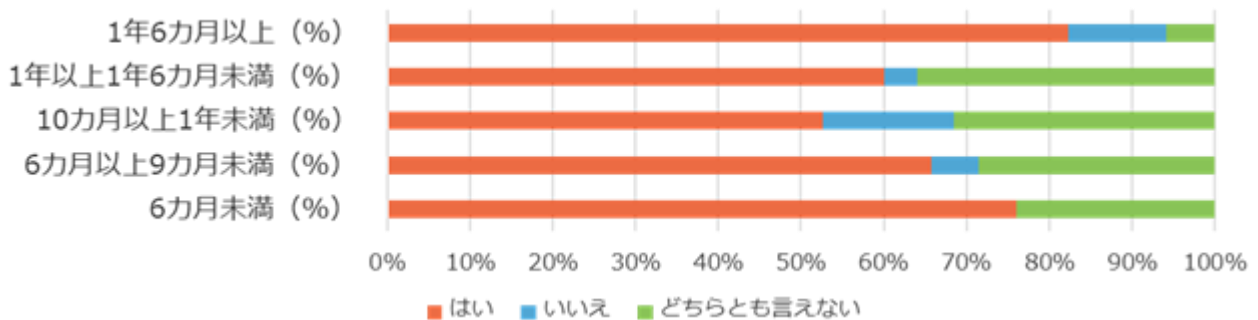
直接会話ができない日は、「nanoty」などのSNS上での会話でも良いと思う



項目	実数	構成比
はい	81	66.9%
いいえ	8	6.6%
どちらとも言えない	32	26.5%
合計	121	100.0%

【園内 SNS 利用月数による違い】

直接会話ができない日は、「nanoty」などのSNS上での会話でも良いと思う



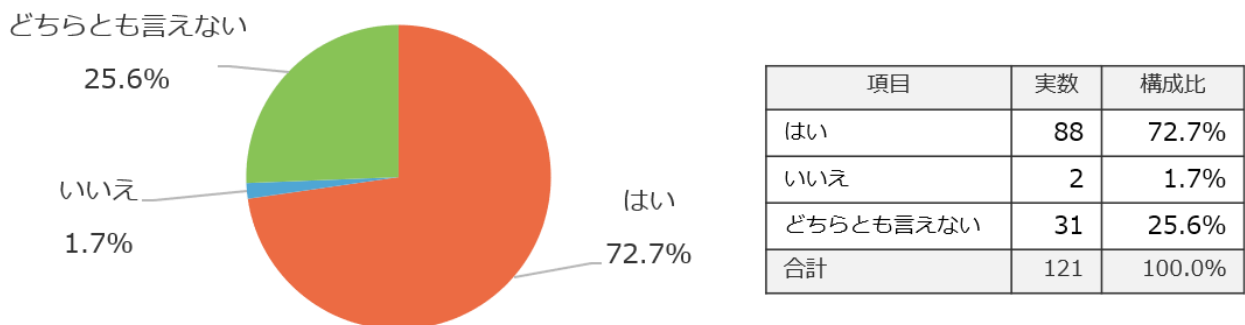
項目	6カ月未満		6カ月以上 9カ月未満		10カ月以上 1年未満		1年以上 1年6カ月未満		1年6カ月以上	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
はい	19	76.0%	23	65.7%	10	52.6%	15	60.0%	14	82.4%
いいえ	0	0.0%	2	5.7%	3	15.8%	1	4.0%	2	11.8%
どちらとも言えない	6	24.0%	10	28.6%	6	31.6%	9	36.0%	1	5.9%
合計	25	100%	35	100%	19	100%	25	100%	17	100%

### 3.3.1.2. 園内 SNS は、職員の業務効率化と時間削減に効果的か？

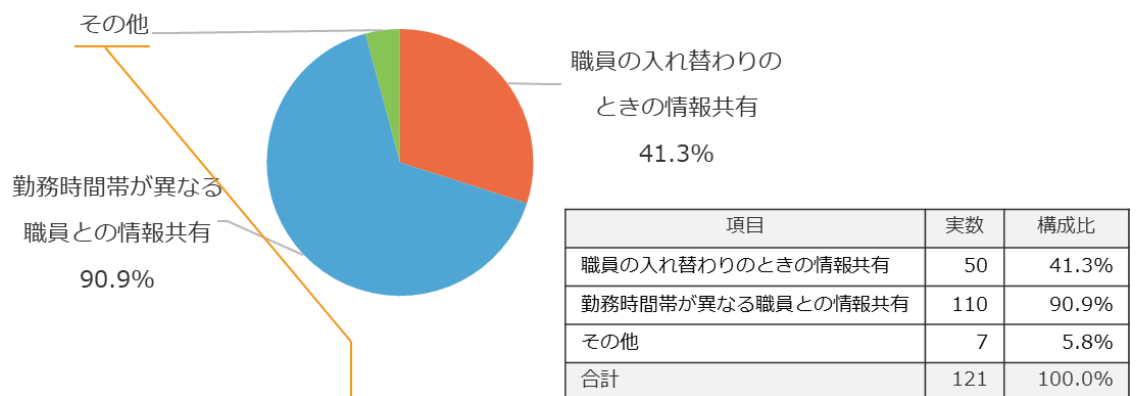
#### ひとつの場所で情報共有することは、職員の確認の手間を省く

「ひとつの場所での情報共有によって、職員間の確認が楽になった」と回答した人が 72.7%だった。様々な書類がある園にとって、必要な書類がどこに保管されているかを確認し、探すのに苦労することもあるが、園内 SNS 内に情報を集約することをルール化し、そこさえ確認すれば欲しい情報が手に入るという状態をつくることによって、職員が楽になったことがわかる。また、園内 SNS で情報共有ができると良いと思うことに、90.9%の人が「勤務時間帯が異なる職員との情報共有」と回答している。特に、勤務時間が異なり、会えない職員同士の情報共有が、園内 SNS の活用効果となっていることがわかる。

#### ひとつの場所（nanoty）での情報共有によって、職員間の確認が楽になった



#### 「nanoty」で情報共有ができると良いと思うことは？

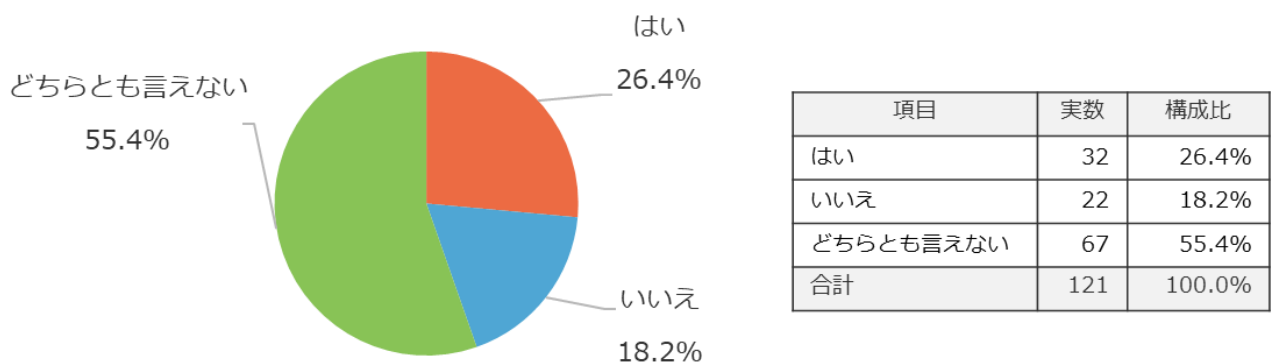


- ・ 園児のことを担任じゃなくても把握出来るようにする
- ・ 職員の勤怠・出張・研修予定など
- ・ 保育園全体のながれを知る
- ・ 会議で伝え忘れた時
- ・ 園舎が複数あるので、その連絡手段として、労力を必要としなくてもいいところ
- ・ 周知が楽にできる

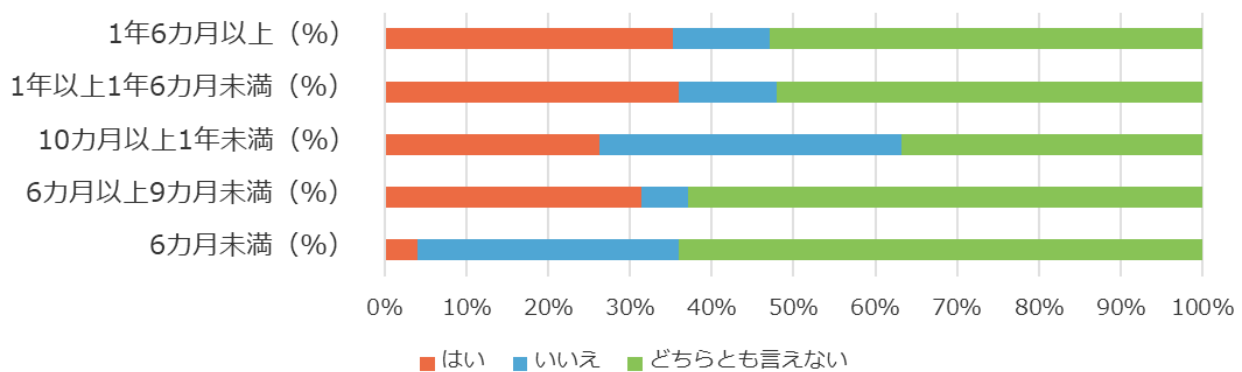
## 職員会議などの時間削減への効果には、園内 SNS 活用を 6 カ月以上継続することが必要

「職員会議などの話し合いの拘束時間が短くなった」という質問に対して、「はい」は 26.4%で少なく、「どちらとも言えない」が最も多く 55.4%だったが、園内 SNS の利用月数で見比べると、「はい」の回答が少ないのは利用 6 カ月未満の職員であり、6 カ月以上利用している職員は、6 カ月未満の職員に比べて、会議などの話し合いの時間が短くなったと感じる職員が増えていることがわかる。これは、会議などの時間削減に明らかに効果があると感じるのは、6 カ月以上園内 SNS を継続利用する必要があるとも言える。

### 職員会議などの話し合いの拘束時間が短くなった



### 【園内 SNS 利用月数による違い】 職員会議などの話し合いの拘束時間が短くなった



項目	6カ月未満		6カ月以上 9カ月未満		10カ月以上 1年未満		1年以上 1年6カ月未満		1年6カ月以上	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
はい	1	4.0%	11	31.4%	5	26.3%	9	36.0%	6	35.3%
いいえ	8	32.0%	2	5.7%	7	36.8%	3	12.0%	2	11.8%
どちらとも言えない	16	64.0%	22	62.9%	7	36.8%	13	52.0%	9	52.9%
合計	25	100%	35	100%	19	100%	25	100%	17	100%

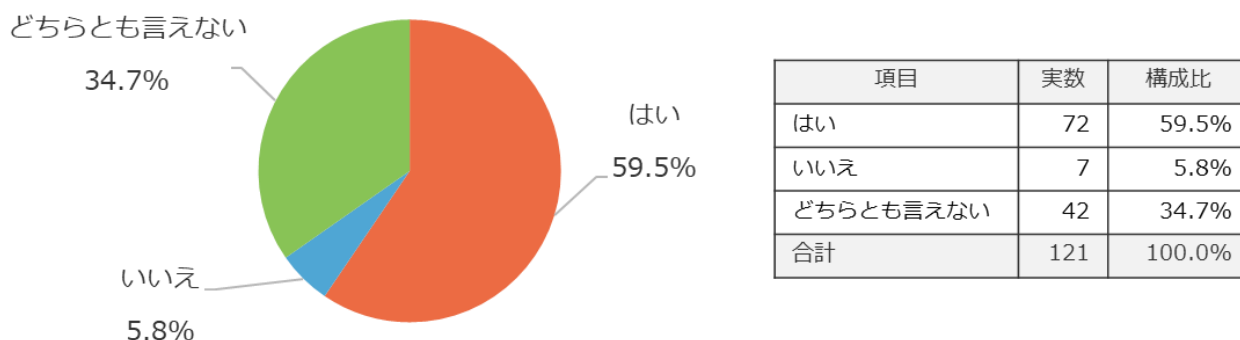


### 3.3.1.3. 園内 SNS は、園内の理念浸透や共通理解を深めることに有効か？

#### 園内 SNS での情報のやりとりが増えると、職員の共通理解も増える

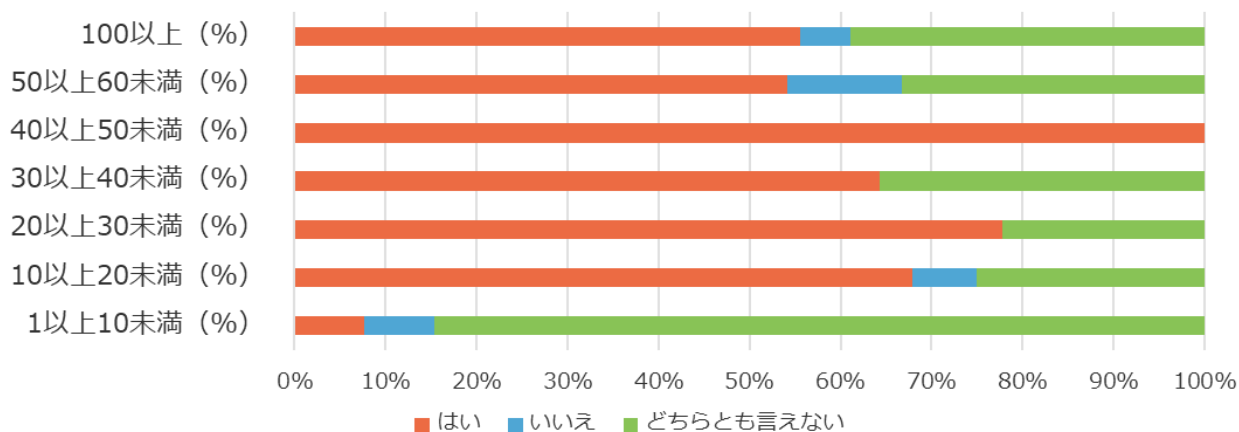
「園内 SNS によって、職員同士、お互いのことや業務ことの共通理解が増えた」と回答した人が 59.5%、ひと月あたりの記事投稿数が 10 以上の職員だと、半数以上がそう回答している。園内 SNS での情報のやりとりが増えることによって、職員同士の共通理解も増えることがわかる。

#### 「nanoty」によって、職員同士の共通理解（お互いのことや業務のこと）が増えた



#### 【ひと月あたりの記事投稿数による違い】

#### 「nanoty」によって、職員同士の共通理解（お互いのことや業務のこと）が増えた

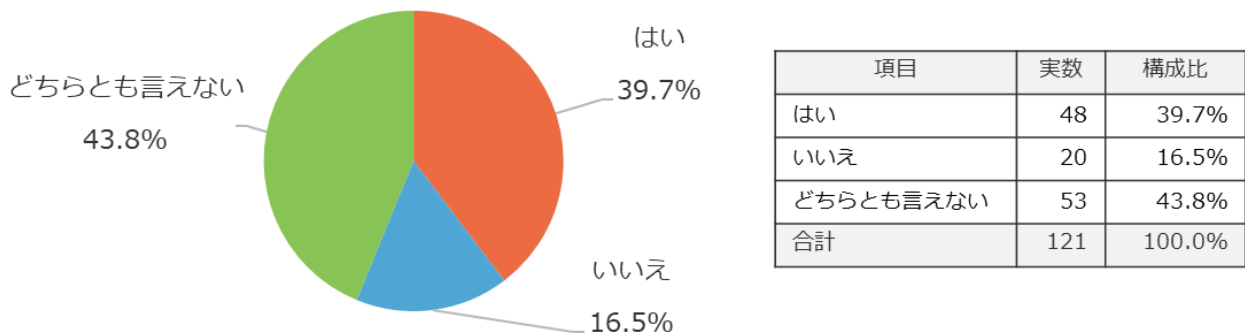


項目	1以上10未満		10以上20未満		20以上30未満		30以上40未満		40以上50未満		50以上60未満		100以上	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
はい	1	7.7%	19	67.9%	14	77.8%	9	64.3%	6	100%	13	54.2%	10	55.6%
いいえ	1	7.7%	2	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	12.5%	1	5.6%
どちらとも言えない	11	84.6%	7	25.0%	4	22.2%	5	35.7%	0	0.0%	8	33.3%	7	38.9%
合計	13	100%	28	100%	18	100%	14	100%	6	100%	24	100%	18	100%

## 園内 SNS での情報共有の機会を重ねることで、園長・主任の考え方が職員に浸透することも

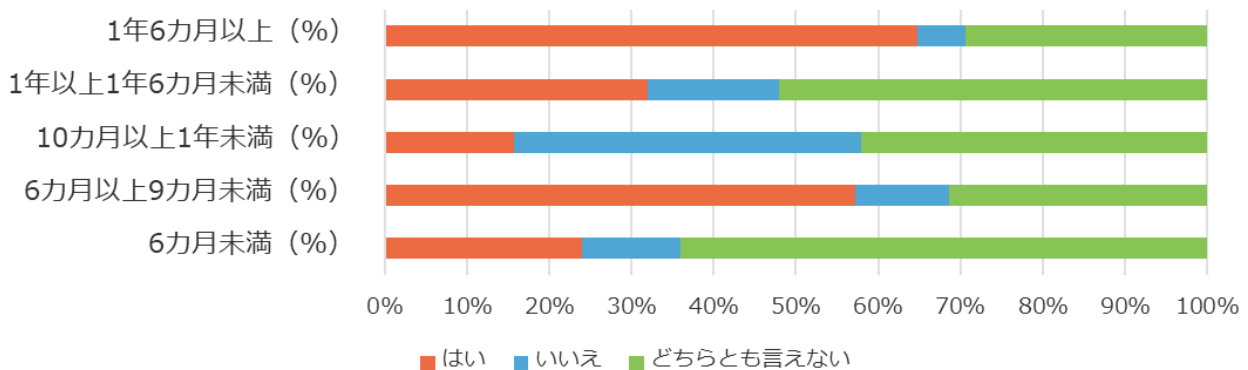
共通理解は、園長や主任などリーダーとなる職員の考えや方針を理解することにもつながることがわかった。「園内 SNS によって、園長や主任の考え方が、職員みんな理解できるようになった」と回答した人が全体で見ると 39.7%と多くはないが、園内 SNS の利用月数が 6 カ月未満の利用者と 1 年 6 カ月以上の利用を見比べると、1 年 6 カ月と長く園内 SNS を利用している人の 64.7%が「園長や主任の考え方が、職員みんな理解できるようになった」と回答していることから、園内 SNS での利用を重ねることによって、園長や主任などの考えがだんだんと浸透してくることと関わりがあるとわかる。

「nanoty」によって、園長先生や主任先生の考え方が、職員みんな理解できるようになったと思う



### 【園内 SNS 利用月数による違い】

「nanoty」によって、園長先生や主任先生の考え方が、職員みんな理解できるようになったと思う



項目	6カ月未満		6カ月以上9カ月未満		10カ月以上1年未満		1年以上1年6カ月未満		1年6カ月以上	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
はい	6	24.0%	20	57.1%	3	15.8%	8	32.0%	11	64.7%
いいえ	3	12.0%	4	11.4%	8	42.1%	4	16.0%	1	5.9%
どちらとも言えない	16	64.0%	11	31.4%	8	42.1%	13	52.0%	5	29.4%
合計	25	100%	35	100%	19	100%	25	100%	17	100%

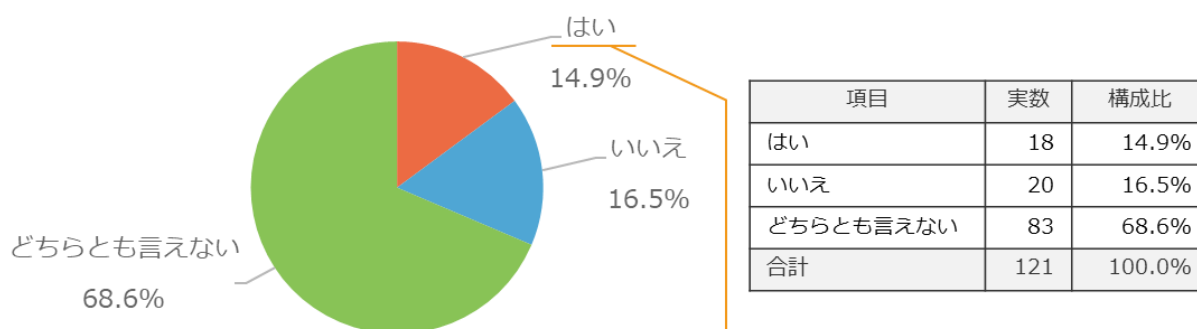
### 3.3.1.4. 園内 SNS は、保育の質向上へのサポートとなるか？

#### 園内 SNS によって、職員の常勤・非常勤や担任となる学年の違い関係なく、統一した（そろった）行動ができるようになり、それが保育の質向上へとつながる

「園内 SNS の活用によって、保育の質向上につながった」と回答した人は 14.9%と少ないが、「いいえ」ではなく、「どちらとも言えない」と回答した人が最も多く、68.8%だった。また、園内 SNS が保育の質向上へ直接的に効果があったと感じるまではいない職員が多いことがわかる。それは、これからの園内 SNS が保育の質向上へつながる可能性を含んでいるとも言える。

「園内 SNS の活用によって、保育の質向上につながった」と回答した職員の具体的なエピソードからは、常勤・非常勤の違いや、学年の違いなど関係なく、園内 SNS での情報共有によって、統一した行動が取れたり、担当関係なく園内全体という視点での子どもへの気遣いができたりする効果につながっていることがわかる。

「nanoty」の利用によって、保育の質向上にもつながった

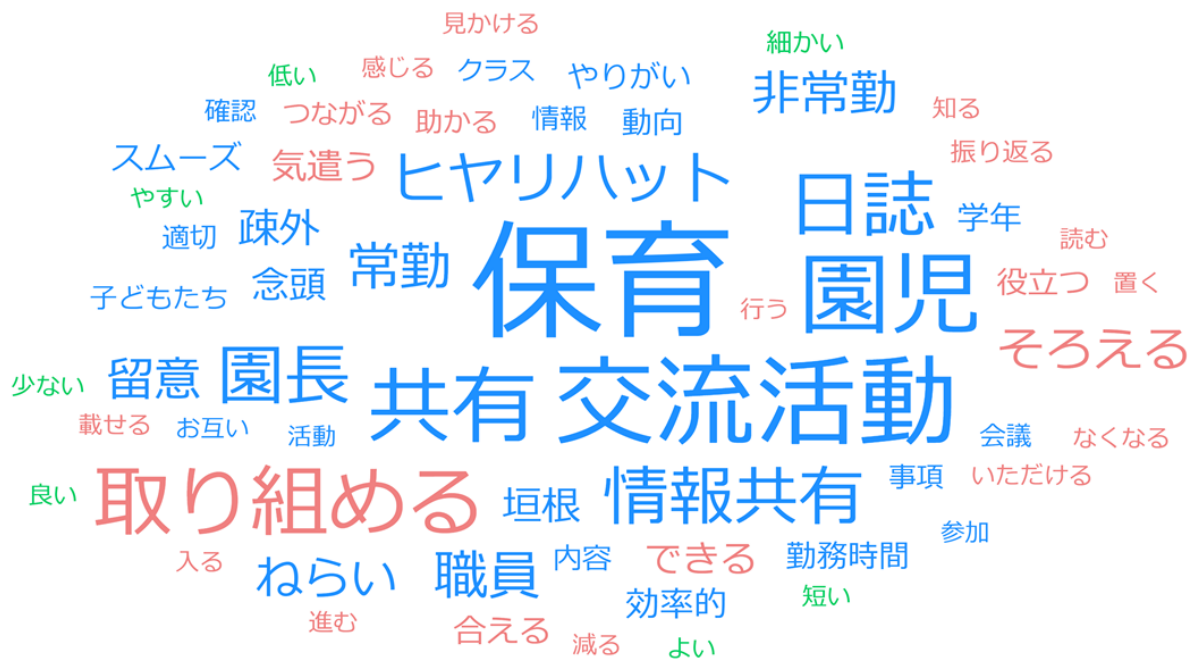


#### 【「はい」の人は、どのように保育の質が向上したか？】

- 各学年の保育内容を共有でき、各学年との交流活動も増えてきた。
- 朝の打ち合わせに参加できないが、出勤前に内容を確認できるので、その日の保育に入りやすい。留意事項や、保育内容のねらいなどを念頭に置いて、活動に取り組める。
- 自分のクラスではない園児の体調なども共有してくれるので、その園児を見かけた時に気遣う言葉をかけることができる。
- 園児の細かい情報が共有できることにより、みんながその情報を意識して活動できる。
- 短時間勤務のため、保育園の流れや、子どものことを知る機会が少なく、不安だったが、以前より情報が入ってくることで疎外感がなくなった。やりがいも感じるようになった。
- 事故報告や研修についても詳細に知ることができ、職員間の情報共有がスムーズで効率的になったと感じる。
- 子どもたちの情報を共有し、統一して行う事で、安全かつスムーズに行う事ができている。
- 保育の考え方を職員間で共有できるようになり、自分自身の保育の振り返りにも役立っている。
- お互いの日誌を読み合ったり、会議内容の確認、ヒヤリハットなど、職員会に参加できなくても内容の確認ができることが助かる。写真も載せたり、情報を共有できるのがよい。
- 勤務時間が短いので会議等に出席することができないため、その日の動向がわかり、自分の動き方や気持ちの持ち方につながるようになった。
- 休みの日でも情報共有できることが、とても助かる。
- 園児の状況を共有できることで、適切な対応ができる。とくに非常勤と常勤の垣根が低くなった。人の日誌を良く読むようになった。各クラスの保育が見えやすくなった。園長の考えなどが共有されることで、全員に共有でき、職員の目標とすべき進む方向をそろえられる。
- お互いの保育（日誌）を確認し合えるようになった。
- 園長からのアドバイスなどを直接ただけて、自分の反省等が明確になった。
- 連絡不足による、時間ロスが減った。

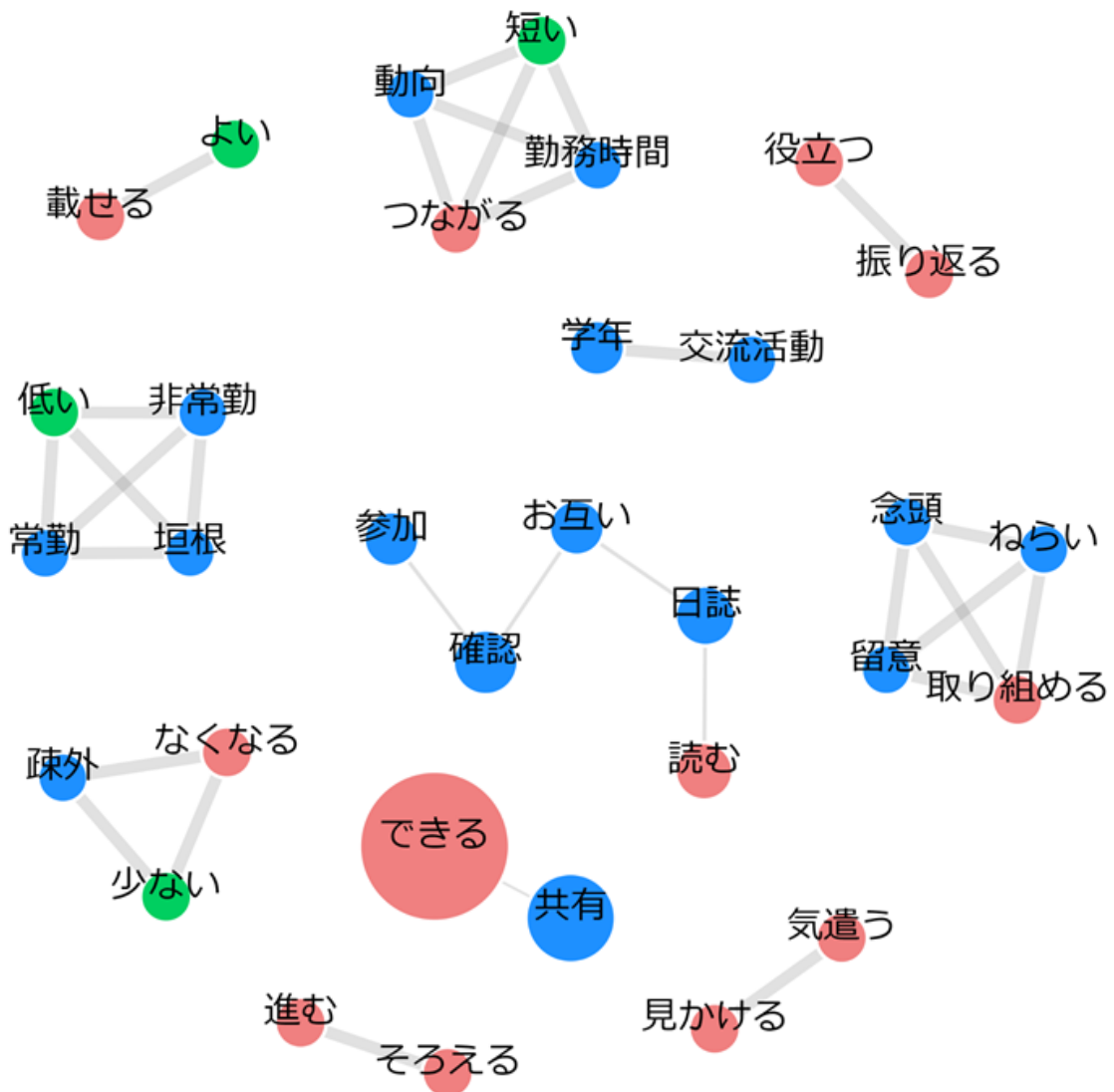
## 保育の質が向上したエピソードをテキストマイニングで分析

大きく表示された出現頻度の高い言葉を見ると、「交流」「共有」「取り組める」「そろえる」「職員」「非常勤」の言葉が多く使われていることから、正職員非常勤職員関係なく、情報を共有したり、交流できたりすることにより、職員そろって様々な日常業務に取り組めるということが見て取れる。



言葉の出現パターンが似たものを線で結んだ図で見ると、園内 SNS の活用が保育の質向上につながったエピソードは、以下のポイントにまとめることができる。

- 常勤と非常勤との垣根が低くなる
- 振り返りに役立つ
- 疎外感が少なくなる、なくなる
- そろって進めることができる
- 見かけたときに気遣うことができる
- 学年が違って交流できる
- ねらいを念頭に置いて取り組める



### 3.3.1.5. 園内 SNS を利用しても解決できないことは？

#### 園内 SNS で伝えきれない温度感や背景は対面でのやり取りとのバランスが必要

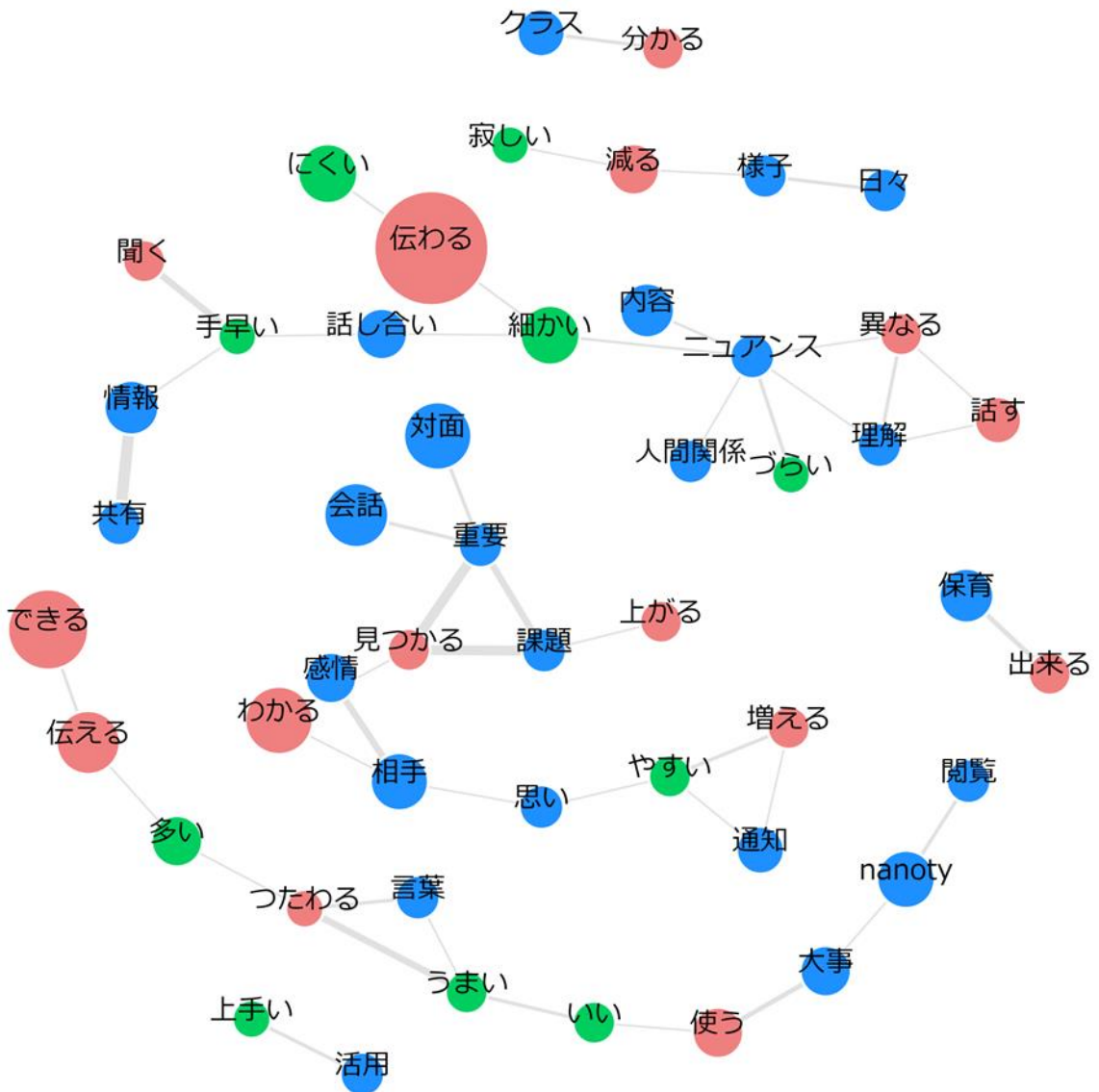
園内 SNS を利用しても解決できないと思うことについては、「対面での会話で得られる微妙なニュアンスや感情」「報告事項の裏にある背景」「細かな確認」などの意見があがった。SNS 上でのやり取りでは、言葉で伝えることに限定されるため、一つの言葉とつても、微妙な温度感や感情が受け取り手の考え方によってはうまく伝わらわれないと考えられる。直接会話ができない場合は園内 SNS 上での会話でも問題ないと思うと考える職員が多い中で、デジタル上の会話と対面でのリアルな会話とのバランスが必要で、それは各園の職員同士で認識を統一する必要がある。

「nanoty」を活用しても、解決できない課題は何だと思えますか？ ※一部

- 内容が細かくは伝わらない。返信も開くのに手間がかかりずさんになっている。
- 記載されている情報量が多いと保育前にゆっくり見ることが出来ない。
- 記録された内容のみなので、その背景や日々の積み重ねの経緯が伝わらないとも思う。連絡事項の確認には良いと思う。
- 保育時間内で確認できる日とできない日があるため、上手く活用できないことがある。
- 見る職員と見ない職員がいる。
- 書類などを作成したときの確認作業は、直接行わないと、スムーズでない。相手の表情がわからない。
- 職員同士の相互理解は、互いに話し、歩み寄らなければ進まない。
- その場での余談はナノティでは載らなかつたり、詳しい説明は省略されてしまうので、伝わりにくさがある。
- 職員全員の理解 活字の奥にある感情などの理解。
- 場の雰囲気、呼吸といった、文字に表せないものは、やはり直接会って話し合わない伝わらない。
- 大体の話の内容などはわかるが、それに対しての細かい部分や、ニュアンスが伝わりづらく再確認したりすることがある。相手がどんな思いでその話をしているのかまでわからない。
- IT リテラシーの差による格差があること。
- 対面で話す方が相手の感情や、思いが伝わる。
- 細かいいきさつまでが、ナノティだけでは伝わらず結局のところは、話し合いの時間は必要。ナノティに載せそびれてしまうこともあつたり、ナノティに記事をあげる時間が確保できなかったりもする。
- 報告は記録されて良いと思うが、伝えたいことがうまく言葉に表現できずつたわっていないことがあつたり、相談などはやり取りしないと解決しないことも多い。
- 人間関係の中で成り立っている仕事なのでやはり細かいニュアンスは伝わりにくいかも知れない不安がある
- やはり、ナノティーがあつて便利だとしても、人対人の会話、伝達は必要不可欠だと思う。コミュニケーションをとることは保育をしていく仲間としてとても大切なことだと思うので。
- 本当に伝えたいこと等活字にすることは難しい。相手の表情によって伝わってくる事もあると感る。

- 子ども達の様子や怪我・病気などは伝達漏れが減ったように思うが、細かい日々様子（精神的な事・文章では伝わりにくい子供の様子など）はやはり口頭で伝えないと伝わらない事もある。
- 人間関係。
- 言葉を選ぶので、微妙な言い回しの違いがでて、それぞれ受けとり方が変わってしまうことがあるようで心配。
- 詳細や、誤解があっては困惑するようなことは、直接対話のほうが思いなどが伝わりやすいと思う
- 伝え方が難しい。相手の感情がわからない。緊急性のあるものとそうでないものの区別がつかないので、見るのには時間が必要。
- クラス内での話し合いはあるが、nanotyによって他クラスとの話し合いは減ったように感じる。対面での関りが減ったようで少し寂しい気もする。
- やはり人と人。文面では伝わらないこともあるし、情報共有に使うのはいいが、大事な連絡はやはり互いに会話するのが大事だと思う。でもこういうものをうまく利用して共通理解を深めるのはとてもいいことだと思う。
- 端的な言葉での連絡になるため、その裏の背景が伝わりにくいため、対話でのやりとりはなくてはならないと感じている







### 3.3.1.6. 園内 SNS の導入による変化の中でよかった点は？

#### 勤務時間や業務内容が異なる職員同士でも同じ情報をすぐに見られる

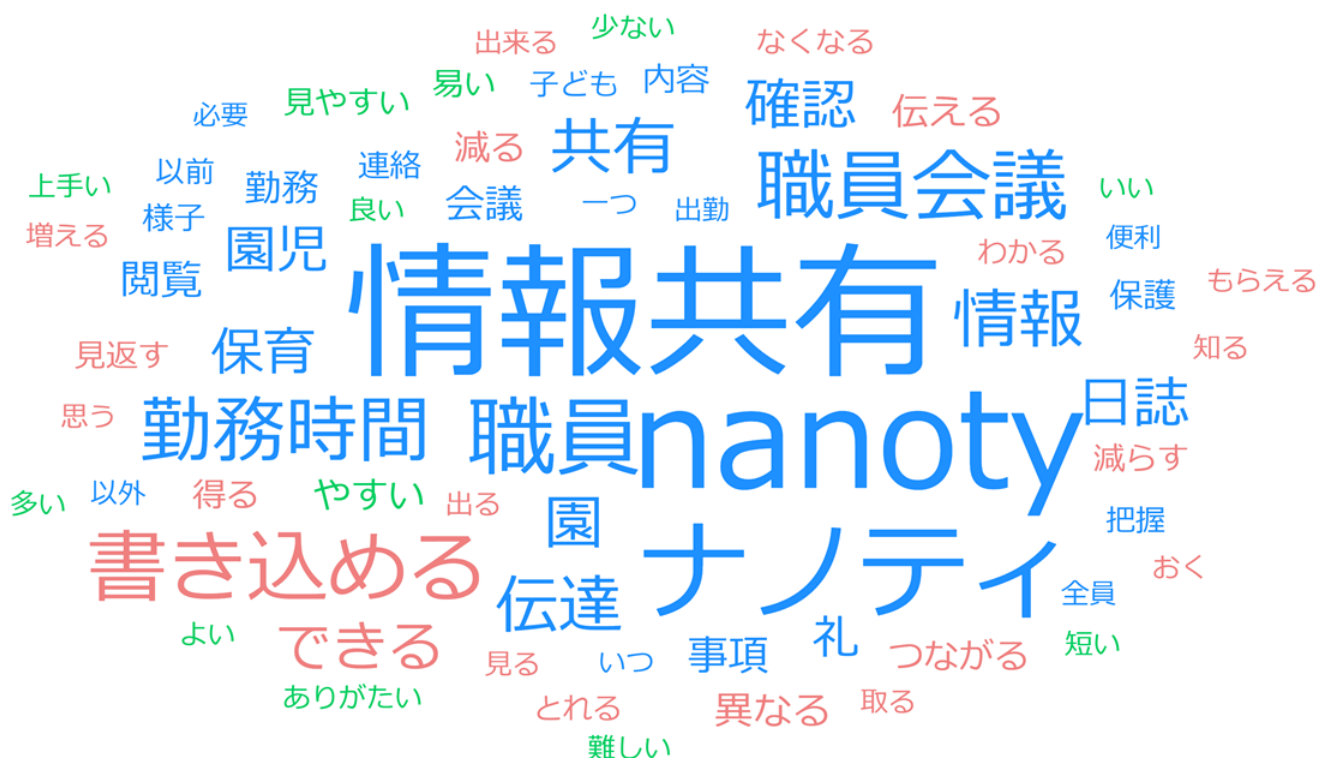
園内 SNS の導入によってどのような良い変化があったかについての質問には、パートや事務、送迎担当など、勤務時間や業務内容が異なる職員も、正職員の保育者と同じように、情報が共有されていること、それによって職員全員が子どものフォローをしやすくなったことが回答にあがった。また、デジタルデータとしてのメリットである検索機能を使って、欲しい情報をすぐに手に入れられることも導入効果として大きいと考えられる。

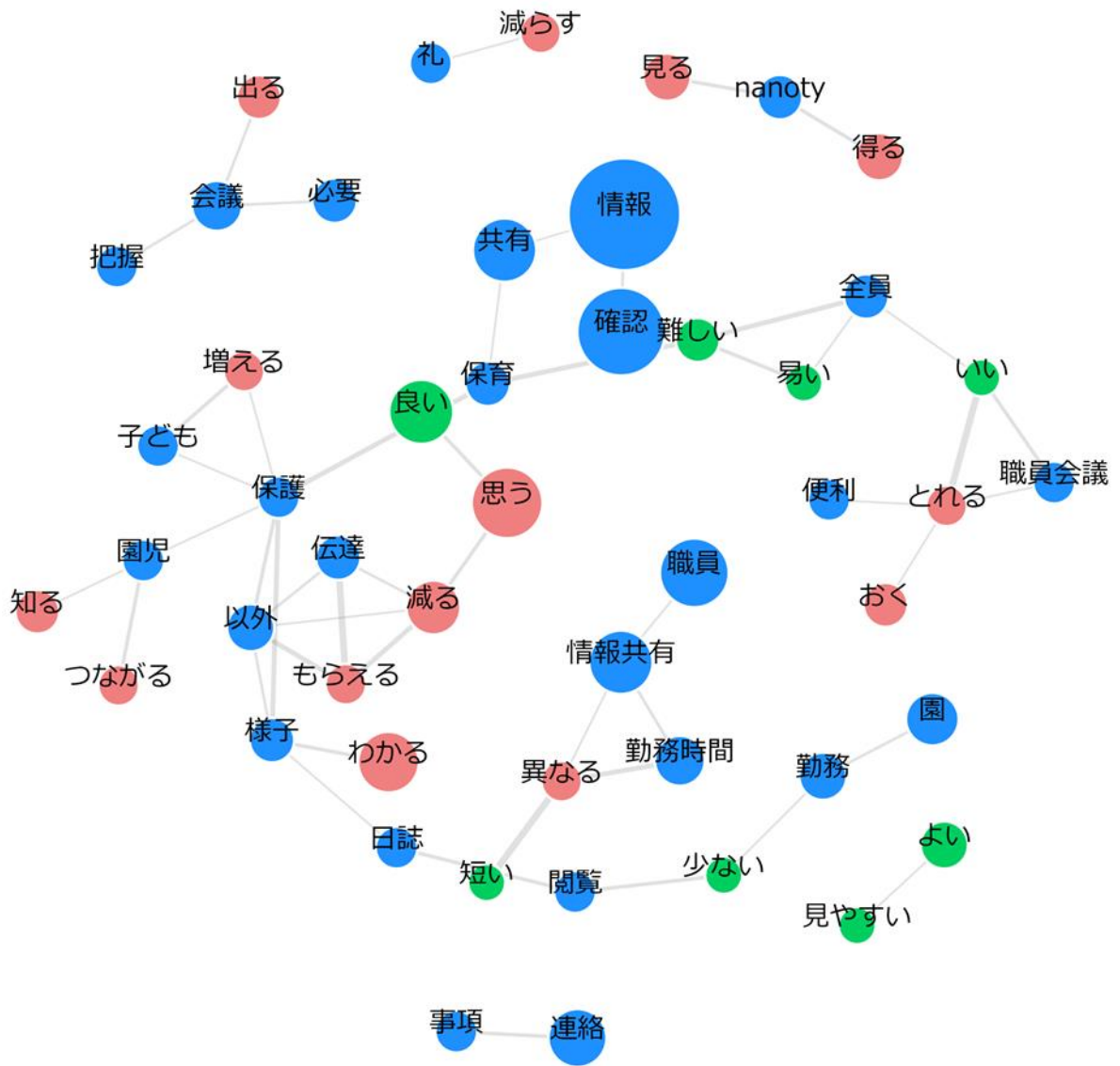
「nanoty」の導入による変化の中で、よかった点を具体的なエピソードとともに教えてください。

※一部

- 今までは紙面で資料を配布していたが、それがなくなり、ネットでの共有ができるようになった。印刷して配る手間も減った。
- 口頭で報告を得る場合も、もう一度文字を通して見返すことで、理解がより深まるため良かった。
- 会議に全員参加は、難しいので、手軽に情報確認し易い。
- 幼稚園にいる時以外にも何かあったら確認する事ができるようになった。
- 朝礼など出席してなく、聞いていなかった事があったが分かるようになった。
- 時間を問わず、すぐに情報を確認できるところ。仕事の休みの時の情報も、確認しやすくなった。
- 勤務日や時間がさまざまな職員がいるが、確実に連絡をしたり、情報を共有したりできるようになった。朝の打ち合わせなど、連絡事項がある人が前もって入力しておくことで要点が整理され時間の短縮ができる。
- 色々な勤務時間の職員や会議に出られない人などとも情報共有ができるようになった。現在時短勤務だが、出勤前や出勤途中に朝の打ち合わせ内容を確認でき、園に着いてすぐ仕事に取り掛かれる。
- 園の中での情報収集の場所が一か所になったこと。
- 思いついたときに各自で情報を書き込めるので、休日や勤務時間でも書き込める。以前は情報共有スペースにも書く場所がなく、誤解を生む省略や要約があったが、それがなくなった。
- 情報が集約されたことで、パートナー職員も共通理解でき、内容の行き違いが減った。疾病や怪我等があった時に、朝の受け入れ時、担任以外でも自宅での様子がわかるような保護者への声掛けが増えた。
- シフトの変更や書類の確認が一つのところに記載される事ですぐに取り出せる。
- 日誌が閲覧できることで、子どもたちの様子がよくわかるようになった。
- 乳児の保育中、職員会議に出る事が難しかったが情報が共有出来るようになって便利になった。
- 時短の職員との情報共有がしやすくなった。
- 会議中のメモが必要なくなった。会議する必要が無くなればなお良いと思う。
- グループ内の他園の様子がわかったり、自園の勤務状況、研修報告など見返す際に検索しやすい。
- 検索をすると確認したいものが見やすくてるのでよい。

- 情報共有ツールを nanoty だけにすることで、情報共有がしやすくなった。どこにいても情報を得ることができるようになった。
- 発信者が何の情報流したらよいかを考えていることがわかる。
- 全職員に同じ情報が共有されることで誤解や齟齬がなくなった。コミュニティの中で時間経過を含めた情報共有ができる。日誌にしても同様。以前は毎日行っていた終礼の MTG が、今は週 2 回に減らしている。研修案内などが全員に一度に共有できる。
- 就業時間が違う職員間で連絡の漏れが減ったように思います。
- 基本的に送迎担当なので 保育者同士の情報を知る機会がなく、連絡不足で困ることが多かったが、nanoty で情報を得ることができて便利だと思う。同時に、こちらからの連絡も漏れることなく皆に伝えられるので良い。
- ねらいを明確にすることにより、意識して活動を取り組むことができるようになった。
- 重要な連絡はすぐに確認することができ、必要な時に必要な情報を見ることができる。
- 事務方も、保育現場のちょっとした出来事や園児の特徴等を知ることができ、園児や保護者と関わりを持ちやすくなったと思う。
- 情報の一括管理
- 子どもの姿や、ヒヤリハットなど、みんなで共有出来る場が増えたと感じている。
- アレルギー対応園児の情報や、日々変わる配管職員数の確認が容易になり、時間短縮につながった。
- nanoty を見れば情報が得られる。今までは複数あったホワイトボードを確認したり、昼礼等で話そうと思っても忘れてしまったりなどあった。事前に記入しておくので伝え忘れも減った。
- 現在パート勤務。大事な情報も共有できるし、でていない職員会議の内容もわかる。
- 系列園があるので、理事長の予定を把握できたり、ナノティーつですべての園に連絡をとりやすくなった。





#### 4. まとめ

本事業を通して、働き方改革の取り組みにおける実態を踏まえ、効果的なICT活用についての今後の課題を見出すことができた。取り組みの実態調査、集金・集計業務の実態調査、園内SNSの活用実態調査から、ICTを効果的に活用するためには、各園の方針と適切に絡み合ったICT活用を検討し、職員のITリテラシーを高めた上で、適切にICTを日常的に利用することが重要であるとする。